

「大崎耕土」田んぼの生きものモニタリング調査 マニュアル

【目的】

生きもの調査を通して田んぼや周辺環境の状況を確認し、発信することで、「大崎耕土」のモニタリングと保全を進めていきます。

この調査方法は、環境の変化に敏感な生きものの仲間を調べ、図として見えるようにすることで、田んぼや周辺環境を分かりやすく記録として残していくものです。1回の調査では分からないことも、何年か行うことで変化が見えてきます。

調査結果は営農や田んぼの管理の参考とすることで、田んぼの環境の保全につながります。また、お米の育った環境や取組みを消費者に伝えることにも使えます。

多くの田んぼで行うことで、「大崎耕土」全体の環境の変化が分かってきます。

【調査概要】

3つの指標を9つの生物群類と4つの調査方法で調査。調査作業時間は20分ほどで行う調査です。生きものを見て数える時間を入れると1時間が目安になります。

【調査時期】

6月中旬から7月中旬（中干し前まで）を目安に行います。

【調査道具】

金魚網、タモ網、シュガーポッド、バット、バケツ、捕虫網など ※詳細は別紙参照

【指標と群類】

※3つの指標で、農法の効果や周辺環境の豊かさ（水路、ため池、林など）が分かります。

- ・ 農薬の指標 ⇒ トンボ、クモ、バッタの仲間
- ・ 土作りの指標 ⇒ イトミミズ、貝、甲殻類の仲間
- ・ ランドスケープの指標 ⇒ カエル、水生昆虫、魚の仲間



【調査方法】

4つの調査を「畦」、「田面」、「水路」の順に調査します。生きものはトンボやカエルなど大きな仲間毎に数を数えます。



・ カエルの調査「畦」

畦を10m×2回歩き、逃げるカエルの数を数えます。

※他の調査を先に行うとカエルが逃げてしまうので1番先に行います。



・ クモ等の調査「田面」

捕虫網を稲をなでるよう10往復×2回、田面の中を歩きながら左右に振り、トンボ、クモ、バッタの数を数えます。

※捕虫網は、体の真横から真横までの180°を1振りとします。



・ 水中や土の生きもの調査「田面」

5分間、田んぼの水の中を金魚網で掬い、イトミミズ、貝、甲殻類、水生昆虫の数を数える

・ 水路の魚の調査

5分間、用水路の中をたも網で掬い、魚の数を数える

※各調査毎に調査票に数を記入し、結果を確認します。

